

11 試験研究

林業試験場試験研究課題

試験研究項目	研究期間	研究内容	担当研究室
1 県産材の需要拡大に関する研究			
(1) 県産スギ材の材質及び強度に優れた品種の選抜	H23～27	県産スギの優位性確認及び成長・材質・強度に優れたスギ品種を選抜する。	木材利用
(2) 小幅板のクロスパネル化による新たな利用価値の創出	H25～29	国産材の新たな活用策として注目されているCLT等クロスパネルの開発、性能評価を行う。	木材利用
(3) スギ一般大径材を活かした心去り製品の開発	H25～29	スギ大径材の価値の向上と利用拡大を図るため、スギ一般（並材）大径材を使った新たな心去り製品の生産技術を開発する。	木材利用
(4) 製材JASに対応した県産材天然乾燥技術の確立	H26～28	県産製材品の天然乾燥を行う場合の気候に適した乾燥期間や割れの抑制方法をマニュアル化し、製材JASに対応した天然乾燥技術を確立する。	木材利用
(5) スギ厚板耐力壁の性能安定化技術の確立	H26～27	県産スギ厚板にダボを組み込んだ耐力壁の性能（壁倍率）を安定化させる技術を確認し、耐力壁の大臣認定を取得する。	木材利用
(6) 直交層を挿入した新しいLVLの住宅用部材としての性能に関する研究	H27～29	県産材LVL（単板積層材）の用途開発による県産材製品の需要拡大を図るため、直交層を挿入して強度性能を高めた新たなLVL製品を開発する。	木材利用
(7) 燃料用木質バイオマスの水分管理技術に関する実証試験	H27～29	スギC・D材のエネルギー利用を促進するため、発電用を主とする原木の水分低減の予測など効果的管理方法の実証を行うとともに、チップ化後の効果的な水分低減の管理技術の実証を行う。	木材利用
2 健全で豊かな森林づくりに関する研究			
(1) ナラ枯れ被害先端地域における効率的防除技術の確立	H26～28	県中・西部のナラ枯れ被害先端地域において、カシノナガキクイムシを効率よく確実に駆除する技術を確認する。	森林管理
(2) 地下流水音探査法を用いた効果的山地災害対策のための技術開発	H24～28	林道・作業道開設予定地等で地下流水音探査法の実証試験を行い、本法による危険箇所判定技術を確認する。	森林管理
(3) シカによる造林木への食害防止のための耐雪型ツリーシェルターの改良・開発	H26～28	シカの食害から造林木を確実に守るため、現在流通しているツリーシェルターの耐雪性能を明らかにし、本県に適したツリーシェルターの改良・開発を行う。	森林管理

試 験 研 究 項 目	研究期間	研 究 内 容	担当研究室
<p>3 活力ある林業・山村づくりに資する研究</p> <p>(1) 低コスト再造林・保育技術の確立</p> <p>(2) 長伐期施業に対応した列状間伐技術の確立</p> <p>(3) 木質バイオマスとしての林地残材の搬出利用に関する実証試験</p> <p>(4) ハイブリッド無花粉スギの創出</p> <p>(5) 初期成長の優れたコンテナ苗生産技術及び植栽実証試験</p>	<p>H26～30</p> <p>H26～28</p> <p>H26～27</p> <p>H24～33</p> <p>H27～31</p>	<p>再造林にかかる経費を低減する植栽方法・保育手法を検証し、コスト低減が可能な造林・保育技術を確立する。</p> <p>間伐材搬出を目的とした間伐方法である「列状間伐」による残存木や林床植生への影響、伐採・搬出コストの調査を行い、長伐期施業に適した低コストで効果的な列状間伐の技術を確立する。</p> <p>切り捨て間伐で林内に残置されている林地残材を、木質バイオマス資源として有効利用するための効率的な搬出利用の促進に必要な現地実証を行う。</p> <p>既存の材質強度、耐虫性および耐雪性品種などに無花粉形質を取り込んだ付加価値の高いスギ造林品種を創出する。</p> <p>初期成長が優れた「コンテナ苗」の生産技術を確立するとともに、現地植栽における活着率・初期成長の向上による「伐採～地拵え～植栽」の「一貫作業システム」づくりに係る実証試験を行う。</p>	<p>森林管理</p> <p>森林管理</p> <p>森林管理</p> <p>森林管理</p> <p>森林管理</p>